

人口と世帯	人口	398,292人
	男	197,590人
	女	200,702人
	(前月より)	2,014人増
	世帯	161,234世帯
(前月より)	1,485世帯増	
	(15年5月1日現在)	

貴重な水です大切に

水道週間 6月1日～7日

～届けます 未来に安心 水道水～

6月1日から1週間、第45回水道週間が全国で一斉に開催されます。普段何気なく使用している飲み水など生活に利用できる水は無限ではありません。水を多く使用する夏に向け、限りある大切な水について考えてみましょう。

水道なんでも相談

水道週間の催しとして、水道に関する疑問、質問にお答えする「水道なんでも相談」と水道まつりつわるパネルの展示等を実施します。お気軽にお出かけ下さい。

日時 6月3日(火)午前10時～午後3時
会場 ぽっぽ町田屋外広場
水道部庶務課 ☎721・3332

漏水を防ぐために

水道は、ご使用になるそれぞれの方の責任で維持管理をしていただかなければなりません。「このくらいなら」と見逃してしまう漏水。漏水を見逃していると、知らないうちにびびくりするほどの料金になります。

漏水を見つけてみましょう
こんな時は、漏水している場合



があります。

蛇口やトイレなどで、使用していないのに水が流れている。水道管の上の地面がぬれている。

受水タンクのモーターが水道を使用しない深夜でも動いている。漏水の発見は簡単

漏水はメータで発見できます。家中の蛇口を全部締めて、水道メータのパイロット(銀色の円盤)の動きを確かめて下さい。パイロットが少しでも動いていれば漏水の合図です。発見した場合は、早急にお近くの都指定給水装置工事業者で修理して下さい。

漏水を発見したら次の電話番号へ
公道・私道・宅内メータまで
平日 ☎給水課 721・3257
休日・夜間 ☎多摩水道管理室 042・521・3331

宅内からメータまで
東京都指定給水装置工事業者
都営住宅
平日 ☎729・5851
休日・夜間 ☎03・3409・2280

東京都住宅供給公社
平日 ☎729・5851
休日・夜間 ☎03・3499・1408

都市基盤整備公団(賃貸)
平日 ☎各管理事務所
休日・夜間 ☎042・376・0051

都市基盤整備公団(分譲)
各管理組合の連絡方法で
アパート・マンション等
各管理人へ

こんな時は水道部へ連絡を
引越してきた時 ☎蛇口から水

がでる場合でも、すぐに「開始届け」を出して下さい。お届けいただかないと使用開始年月日、使用者名の確認ができず、後日、料金を巡るトラブルのもとになります。引越していく時「遅くとも7日前までに水道部に連絡下さい。水道は引越当日までご利用になれます。

料金請求書などの郵送先を変更するとき
家の取り壊しなどで水道を廃止するとき
水道所有者・使用者が変わる時
水道部業務課 ☎721・3221

1、3214、3219
水質に異常があると思われる時
水道部施設課 ☎721・3226

水道工事・修理は、
東京都指定給水
装置工事業者で

水道管や器具に欠陥があったり、工事方法が適正でない、漏水したり、飲用に適さない水となつてしまいます。こうしたことを防止するため、東京都の給水条例により、家庭に水道を引き込む工事などはすべて「東京都指定給水装置工事業者」が施工することになっていきます。

水道を新設する場合はもちろん、増・改築などで建築業者が立ちする場合でも、指定給水装置工事業者であるかどうかを確かめて下さい。無資格業者が施工した場合、後日工事のやり直しとなり、費用が二重にかかることとなります。

受水タンクの掃除を
中高層のビルや住居では、浄水場から送り出された水圧では給水できないため、いったん水を受水タンクのために、ここからポンプ等

で、各階へ送る方式をとっています。この受水タンクの維持管理は建物の所有者の責任で行うことになっていきます。保守点検は定期的に行い、少なくとも毎年1回はタンクの清掃を行いまししょう。

受水タンクの水質に異常があると思われる時は、町田保健所(☎722・0621)へ。

悪質訪問にご注意を
水道局(町田市水道部)の名をかたる悪質業者にご注意下さい。水道局(町田市水道部)では、次のようなことは、一切行っておりません。

お客様からのご依頼のない水質検査
蛇口などの器具類、浄水器の交換・販売・幹旋
水道メータ交換代金や水質・漏水調査代金の請求
水道管の清掃

お客様の家を訪問しての水道料金の集金(引越越時の清算等を除く)
銀行口座等への水道料金の振り込み依頼

市長随筆

その7

町田市長

寺田 和雄

前回の本シリーズで、戦後一期町田で小学校の先生を勤めながら、やがてピクチャーの作家となり、「街のサウンドイッチマン」など、数々のヒットを生んだ宮川哲夫について紹介させていた。ところが、これが予想以上に各方面から反響があり、宮川出身地である大島の町長さんからは、「わが郷土の誇りである宮川先生をよく書いてくれた」とお礼の電話があり、また、宮川夫人が「健在でいらっしやるのがわが、これまた、三十年近くも前に亡くなった宮川を懐かしい町田の広報で取り上げていただいて」と感謝されたり、その他、数人の方から便りをいただいたり、私自身感激をしているところである。

宮川哲夫について

昭和十八年、町田国民学校初等科六年(現・町田第一小学校)の私のクラス担任は、師範学校を卒えたばかりの元気な近藤元(鶴川出身)先生であった。児童たちを野外に連れ出したり、合唱を教えたり、遠く津久井の城山まで徒歩行軍をしたりで、子供たちには人氣があつた先生だが、豊島師範で宮川の学友だった。近藤はその後、稲城市立第四小学校の校長となつた。宮川は近藤から校歌をつくって欲しいと依頼されたそうだが、校歌だけは助弁してと監修だけ引き受けたという。近藤はその後稲城市の教育長を勤めたが、すでに故人となつている。あの、何もかもが不足勝ちであつた戦時下

にあつて、子どもたちを励ましなから、全力で教育に取り組んでいた青年教師群像の姿が、近藤先生を通じて、宮川もかくあつたろうと私には思えるのである。

宮川夫人からは、「公園の手品師」と題する宮川哲夫遺稿詩集をはじめ、沢山の貴重な遺品(原稿・写真・雑誌)を贈られた。これらはいずれ整理したうえで、市民にも開示したいと考えているが、「公園の手品師」の詩集のデザイン・装丁は版画家の故・畦地梅太郎(町田市名誉市民)が担当している。これまた不思議に町田に縁のある話である。

宮川の町田時代の作品、「街のサウンドイッチマン」も「ガード下の靴みがき」も、その日の暮らしにもこと欠く、貧しい人たちがそれでも健気に生きようとする姿が歌のテーマであった。優しさにあふれ、そして鳥の出身とは思えない都会の哀愁を歌つた詩人として、もう一度見直されていい詩人の一人であると思う。



詩集「公園の手品師」